【実践報告 2】プレキャリア教育

プレキャリア実施報告（理工学部総合理工学科環境・生態学系）

百　木　英　明※

はじめに

現下の厳しい就職環境と学生の多様化により、早期からの「キャリア教育」の必要が叫ばれている。ただ、「キャリア教育」の意味するものは多岐に亘り、内容に関しても未だ一致をみていない。文部科学省は、2011 年から、大学での教育課程に社会的･職業的自立に関する授業等を盛り込むことを義務化した。本学では、既に、「自立と体験 1」「自立と体験 2」でキャリアに関することが教育課程に盛り込まれている。平成 21 年 3 月の学部長会での基本方針を受け、学科独自に運営する「自立と体験 2」を基盤に、教職員との連携により計画的かつ効率的な授業運営を図ることから、明星教育センターがその一部を担うこととなった。今回、理工学部総合理工学科環境・生態学系と造形芸術学部造形芸術学科において、「自立と体験 2」の中で、“プレキャリア”として実施した。本報告は、2011 年に実施した総合理工学科環境・生態学系に関する実施報告となる。

1. 実施について

「自立と体験 2」は、各学科独自に、学科の特色を活かす形で実施されている。今回、環境・生態学系の必修科目である「基礎環境学Ⅱ」で､明星教育センターが“プレキャリア”として 8 回分実施することになった。当初センター所属の上原先生が、学科との連絡役として、亀掛川先生と実施の詳細を詰めた。学科の意向を受け、榎本・鈴木両先生と百木の 3 名で全体の流れ（8 回分）と、各回の教案の作成に取り掛かる。プレキャリアとしては初めてでもあり、更に今後のキャリア教育を展望しても、今回の位置づけは軽々しいものではないとの意識で取り組んだ。十数回の検討を経て教案完成後は、明星教育センター内会議等の機会を利用し、事前研修（表-2）をし、学生に理解可能な表現や取り組み方について確認、修正を行ない教場での実施に移した。2 回目の「チームで働く」は、明星教育センターの教員・職員による事前実施したタワーとは異なる学生による発想で、高いタワーを作り出していた。また、使用する材料として、特に 3 回目の「読む」では、環境系に沿ったものとして、担当教員が“都市のヒートアイランド化”に関する新聞記事を使用し、少しでも学生の関心に近いものを選択した。記事の構成やキーワードを選び出す作業を通して、文章の構成について学生への指導となった。4 回目の「書く」では、文章を節に分けて、各節の統合による文章の作成と丁寧な指導がなされた。後半の授業は、キャリアデザインを主眼とする内容での実施となった。「キャリアとは何か」から始まり、自己理解とし自分を知る、外部環境の社会を考察し、自らのキャリアデザインとして大学生活での行動計画を作成した。

1）経過

2011 年 6 月 16 日　　構想検討
2011 年 7 月 7 日　　明星教育センターと学科との打ち合わせ

※ 教育学部常勤准教授　明星教育センター

2011 年 7 月 8 日　　科目実施要領として〈ねらい〉〈授業内容〉の枠組み確定
（表-1 参照）
2011 年 9 月 16 日　　1 時限目「基礎環境学Ⅱ」での説明会出席（上原・鈴木先生）

(1) 授業のねらい

「学びの意識を高め、学び始めるための基礎的な力を育てること」

・「自立と体験 1」による「自己理解」の上に成り立つ「学びの準備」

ア.「読む・書く・聞く・話す」の基礎力向上

イ．日本社会の現状を理解し、卒業後のキャリアデザインを考える。

(2) 授業の日程と内容を学生に説明する。

プレキャリア科目実施要領

〈授業内容〉

	日程	授業テーマ	ねらい	到達目標
1	10/1	聞く力・話す力	・「聞く・話す」という学びの基礎を身につける	・聞く・話すという基本的なコミュニケーションにより相互理解を図れる
2	10/8	チームとして動く力	・グループワークの体験を通して、人と協力することの意義を理解する	・グループワークに主体的に参加できる ・人と人との協力関係を理解できる
3	10/15	読む力	・文章のポイントをとらえて読む力を身につける	・文章の要約ができる ・文章のポイントをまとめることができる
4	10/22	書く力	・相手に伝わる分かりやすい文章を書く力を身につける	・分かりやすい文章が書ける ・相手を意識して相手に伝わる文章が書ける
5	11/12	自分にとって大切なことを考える	・自分が持っている価値観について考えてみる ・自分が（仕事にしてもよいほど）好きなことについて考える	・自分の大切なものを通して自分の価値観が自分のライフプラン（卒業後の人生）に関連することが分かる ・他者との違いを通して価値観の多様性を知る
6	11/19	自分を表現する	・様々な観点から、自分について文章で表現する	・他者に自分を伝える文章を分かりやすく簡潔に書ける ・他者の良い面を認め、伝えることができる
7	11/26	社会と働く意味について考える	・卒業後に踏み出す今の日本の社会はどういう社会かを考える ・自分にとっての働く意味について考えてみる	・日本社会の現状を理解する ・社会の一員としての自分のあり方を考える機会をつくる ・働く意味を考えることにより、働くことに対してのモチベーションを高めることができる
8	12/3	学ぶことの意味について考える	・卒業後のキャリアデザインを考えることにより、学ぶことの意味について考える	・卒業後の自分のキャリアをイメージできる ・卒業後につながる 4 年間の学びについて考え、計画を立てることができる

（表-１）

以下、講義実施日及び事前研修日は下記表の通り。

	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回
事前研修日	9 月 16 日	9 月 23 日	9 月 30 日	10 月 6 日	10 月 13 日	10 月 20 日	11 月 4 日	11 月 12 日
実施日	10 月 1 日	10 月 8 日	10 月 15 日	10 月 22 日	11 月 12 日	11 月 19 日	11 月 26 日	12 月 3 日

（表-2）

2. 総括

土曜日の実施ではあったが、出席状況（表-3 参照）としては良好と言えよう。学生が「自立と体験 1」を前期で経験していること、同じ学科であることから、多少雑談に盛り上がりを見せたこともあるが、運営上の問題はないように見て取れた。学生からの感想は図-1、表-5 をご参照頂くとして、概ね学生には良い刺激になったようである。

尚、担当教員からの総括はそれぞれ以下の通りである。

上原先生→アンケートでは 5 がほとんど見られなかったことは反省点である。かなり辛辣な意見もあるが、出席不良、授業に対してやる気のない学生に対して、授業参加を強く促したためである。また、入学直後の緊張感が薄れてきていることが、後半の出席率の低下に現れていように思われる。

羽矢先生→全 8 回の授業で、後半のキャリアデザインを意識させる授業では、1 年生の後期という時期でもあり、なかなか具体的にイメージを広げていくことが難しいようだった。しかし、漠然とした将来をグループの友人と話し合うことで刺激を受け、考えようとする学生が多かったことが印象的である。また、自分の考えをある程度持っているが、文章や図式化という形で明確にすることに慣れていない学生が多いことにも気がついた。「自分を表現する」力をつけるためには、表現することを習慣化する必要がある。

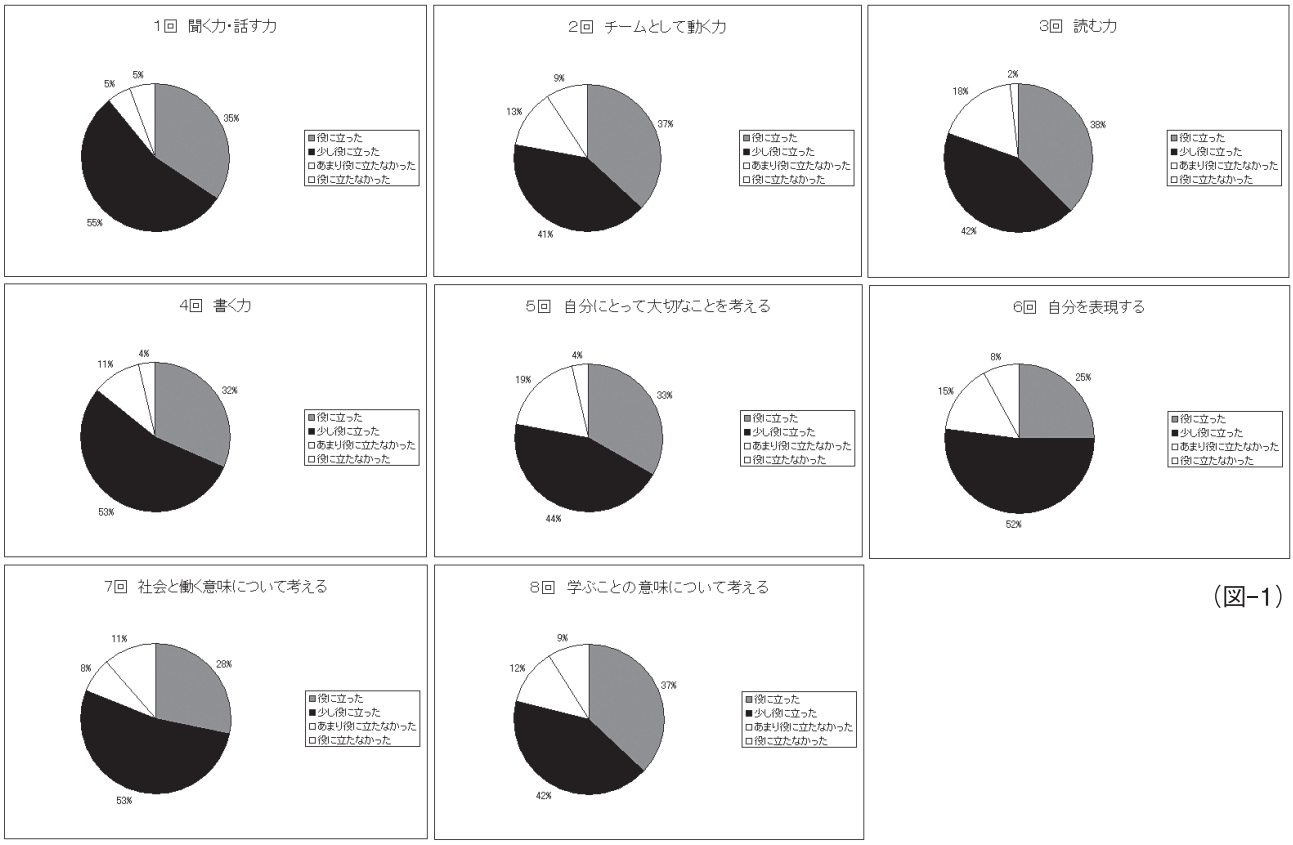
①出席状況

プレキャリア環境・生態学系出席状況

	10 月 1 日	10 月 8 日	10 月 15 日	10 月 22 日	11 月 12 日	11 月 19 日	11 月 26 日	12 月 3 日
1 時限目（42 名）	33 名	36 名	37 名	36 名	33 名	35 名	33 名	32 名
2 時限目（36 名）	34 名	26 名	25 名	28 名	29 名	25 名	25 名	24 名

（表-3）

②学生アンケートの結果



（図-1）

③学生の感想

（表-5）

項番	自由項目
1	この8日の環境基礎ゼミプレキャリア授業で、聞く力、話す力、などが身に付いて、良かったです。
2	土曜日だったのが残念。せめて平日にしてほしかった。
3	土曜１限は大変だった（気持ち的にも）
4	１限からだから朝起きるのが大変だった。
5	平日がよかった。
6	少し役に立った。
7	１限の先生が言っている事がよく伝わらなかったし、何よりも私たちに教える事が嫌なのではないかというくらい雑だし言い方もきつかったのが残念でした。 今まで有難うございました。 「書く力」の時は苦手だったので授業で出来て良かったです。
8	自分はまだまだ将来何になりたいかきまっていない。だけどこの環境基礎ゼミプレキャリア授業をやり少しは見えてきたような気がします。
9	おもしろ味がない上に、あまり必要のないものだった。
10	高校とかでもやっていたから、大学に入ってまでやることじゃないと思う。
11	この授業は、どの回も、社会へ行くために必要なことばかりなのでとても良い体験でした。
13	とても自分の力になる授業だった。土曜日の１時限だったので出席があぶなかったが、ギリギリだったのでよかった。
14	自分の希望や自分のやりたい事に向き合えるのはとても良かった。 やっぱり、自分のやりたい事などに向き合う機会などは少なく、とてもためになった。 １限はキツかったです。ギリギリセフセフ
15	色々な人の夢や希望の職業が聞けて良かった。
16	楽しかったぜい。
17	普段、自分からは考えない将来の仕事について考えてみて、まだ全然まとまってはいないが考えてみると、やりたいことや、やってみたいことが増えていて良かった。 自分が成長するにつれて考え方がかわっていく、それを知れることも良かった。
18	役にたったと思う。 土曜日授業があるのは、正直めんどくさかった。
19	人見知りだったので話す力が少しは身に付いたと思います。 卒業後のことについて少しは考えるようになったと思います。
20	積極的に授業に取りくめばより良かったと思う。
21	あまりかたくるしいものではなく、とてもうけやすかった。
22	グループでの行動や、自分を表現することにおいてよく学べた。
23	自分に今足りないことが知れてよかった これを機に、足りないことをどのようにおぎなえるかをしる機会ができた。
24	一段上の自分に一歩近づいた気がする。 友人との仲も深まった。
25	自分のことは分かってるつもりだったが、そんなに分かっていなかった。
26	いろんな人と関われてよかった。
27	とてもためになった。自分のやりたいことや好きなことなどを改めて知ることができた。今まで学んだ事を振り返り、ここから新たなスタートを切りたい。
28	グループワークや自分の意見を相手に伝えるというこれから就職した時に必要な力が、少しかもしれないが、付けられてた思う。 前期の自立と体験とかぶっている授業があったので、もう少し工夫して欲しい。
29	「自分のことを知る」という事が大切という事が再認識できた。 書く力が自分にはあまり無い事がわかれた。 第5回以降の授業を受け、人はそれぞれ違う考えを持ち、ちゃんと考えて生きているなと思い、自分も考えながら生きていこうと思った。
30	プリント内に“前期で「自立と体験１」の授業で”と書かれているように、自立と体験の授業として行っていくべきではないかと思います。
31	社会はとてもつらいと思うからこの授業をやることによって少しでも自分にとってプラスになると思う。
32	この授業を通して、改めて将来のことについて考えられたと思います。
33	すべての授業が役に立つものでした。 自分のいたらない点などがわかり、今後改善すべきことが見えてきた。
34	自分の将来についてよく考えることができた。 色んな人と話せて良かった。
35	土曜日の授業というのがいやだった。将来の一年生も土曜日にやるべきである。 もしこの授業が土曜日でなければ、2回休んだりしなかっただろう。そもそも、全員の日程が合うのが土曜日だったという話だが、あらかじめ時間割に組み込んでおけばいいだけのことであり、この授業をちゃんとやっても単位がないというのが悪質である。
36	ジョブマップや他色々なものを作成することで、自分を客観視することができた。 前半4回では、聞く・話す・読む・書くなどの基礎的な力を身に付けることが出来、後半4回では大学卒業後の自分を強く思い描くことが出来た。 全体を通してすべての授業のテーマが重要で、自分のためになったと思います。
37	カメラが微妙に気になりましたが、班の人としっかりと協力できた。
38	2回目のチームとして動く力では、人によって様々な意見があり、それぞれ良い点があって、人と協力する大切さが理解できました。
39	この授業で、自分がこれからの大学生活でやっていきたいことを考えたりなど自分で自分のことを考え、改めて自分がどういう人間かを理解できたと思う。
40	土曜日以外にしてほしかった。 この授業で自分の事、他の人の事をいろいろ知れた。

3. 課題

今回、明星教育センターとして教職員が事前に周到に準備し実施した。プレキャリアが「まだ早い」と感じた学生もいたが、新聞の切り抜きをファイルしている学生もおり、早期からの実施に良好との判断を示している。全体としては基礎的な部分の実施であったが、担当教員の丁寧な指導もあり、文章を書くなどの基礎的な力の錬成には、繰り返しの反復作業を通して、力をつけていく必要を感じた。他国と異なり、日本では 9 割が大学在学中に就職活動をするということから（本田由紀 .2011 年 .P52)、学生の就職活動としての実務的な面とキャリア教育との連携を密にする就職活動への支援の仕方を検討しなければならない。学生にとって､このプレキャリアが単なる「就職だけの目的」とするものではなく、働くことと大学での学習がどう関係づけられるかを、学生自ら今後の進路を考えていくプログラムを用意する必要を感じる。来年度以降キャリア教育が体系的に実施されるであろうが、学生の進路を大学全体で支えていく取り組みは高学年次で更に深めていくものと思う。また、このキャリアの授業を実施するに際して、教員としても留意しなければならないことを痛感する。学生からの“良かった”“ためになった”がどれだけ学生に響いたのかが問われる。こうした点については、講師の留意点として 5 点が整理されている。①継続的改善のための調査や評価をし、教授方法に修正を加える。②「重要さがわかった」「理解できた」で終わらない工夫をする③気づきの源となる危機感や切実感をどう醸成するか、が大切である。④「答えは自分の中にある」という立場から自問自答させる。⑤「気づき」から逃避する精神的な壁をもつ学生に対して、働きかける必要がある。(「国立大学協会　教育・学生委員会」2005 年 .P27.)。キャリア教育については、別の機会に論ずることとさせていただきます。

最後に、学生アンケートの集計、グラフ化等で明星教育センターの方々からのご協力に感謝します。

（付記）

造形芸術学科のプレキャリアは、1 月 21 日、1 月 28 日に、榎本・鈴木両先生指導の下に実施された。1 月 28 日が後期の最終日すなわち今年度最後の講義日であり、良い振り返りと今後への自らの方向について学生一人一人がプレゼンをし、2 年時以降、青梅キャンパスで学ぶ学生の新たな出発となった。

（ 31.1.2012）

参考文献

1. 苅谷剛彦 / 本田由紀（編）
「大卒就職の社会学 ― データから見る変化」（東京大学出版会．2011 年）
2. 社団法人国立大学協会　教育・学生委員会
「大学におけるキャリア教育の在り方　― キャリア教育科目を中心に ―」（国立大学協会．2005 年）